



学校だより 9月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakawada/>



「実りの秋に向けて」

校長 山中 卓

長い夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。

久しぶりに会う友達との会話を楽しむ姿や、ひと回り成長したように感じる子どもたちの姿を見ていると、学校にとって子どもたちが元気に登校してくることが、決して当たり前ではなく、かけがえのないことであると改めて感じます。

この夏も全国各地で厳しい暑さが続きました。お盆の頃には少し涼しさを感じる日もあり、「秋が近づいてきたかな」と思われましたが、まだまだ残暑の厳しい毎日です。

一方で、地震や台風に伴う豪雨などの自然災害も相次ぎました。7月下旬には熊本県で地震が発生し、被害を受けた地域では今なお復旧に向けた取組が続いています。さらに、8月中旬には千葉県でも記録的な豪雨に見舞われ、浸水や停電など大きな被害が発生しました。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く安心できる日常が戻ることを願っております。

こうした災害の報道に触れるたびに、「災害はいつ、どこで起こるか分からない」ということを実感します。そして、そのことは学校生活においても大切な教訓を与えてくれているように思います。それは、「その時になってから考える」のではなく、「その時のために今から考え、備えておく」ということです。

学校では、日頃から避難訓練や安全教育を実施しています。しかし、本当に大切なのは、子どもたち一人ひとりが危険を察知し、「今、自分はどう行動すれば安全なのか」を自ら考え、判断し、行動できる力を身に付けることです。もちろん、先生の指示をよく聞くことは大切です。しかし、それだけでなく、自分自身で周囲の状況を見て危険を予測し、安全な行動を選択する力も育ててほしいと願っています。

防災について考えることは、決して特別なことではありません。

朝、家を出る前に天気予報を確認すること、急な雨や雷の際には無理に移動しないこと、家族で避難場所や連絡方法を確認しておくことなど、日頃の小さな備えが、いざという時の大きな力になります。ぜひこの機会に、ご家庭でも災害への備えについて話し合っていただければと思います。

さて、これからの学校生活では、10月の「135周年記念運動会」や12月の「くすのきスマイルデイ」をはじめ、各学年の学習活動など、様々な行事が予定されています。

行事は、子どもたちにとって楽しい思い出となるだけではありません。友達と協力すること、自分の役割に責任をもつことなど、日々の授業だけでは得ることのできない大切な学びの機会でもあります。

また、成功の経験だけが成長につながるわけではありません。思うようにいかなかった経験や、友達と励まし合いながら努力した時間も、子どもたちを大きく成長させてくれます。互いを認め合い、一人ひとりが輝く「実りの秋」となるよう、教職員一同、子どもたちをしっかりと支えてまいります。

暦の上では秋を迎えても、厳しい暑さはまだしばらく続く見込みです。引き続き熱中症への警戒が必要です。

学校では、暑さ指数(WBGT)を確認しながら活動内容を工夫し、水分補給や休憩を十分に確保するなど、安全を最優先に教育活動を進めてまいります。ご家庭におかれましても、十分な睡眠や朝食の摂取、水筒の準備などについて、引き続きご協力をお願いいたします。

「学ぶこと」も「挑戦すること」も、まずは健康で安全に過ごせることがあってこそです。子どもたち一人ひとりが安心して学校生活を送り、自分らしく力を発揮できるよう、学校・家庭・地域が力を合わせて支えていきたいと思います。実り多い秋となりますよう、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。